

復興支援異分野連携プロジェクト 緑の街づくり部会  
第2回花と緑の街づくりによる復興構想会議  
「グリーン産業ソリューション&国際復興花博構想」

【概要】

開催日時：平成23年6月13日（月）18:30～20:30

開催場所：秋葉原 UDX 6F UDX オープンカレッジ

参加人数：参加者数: 13名

【会議開催目的】

東日本大震災において、研究機関や企業単独の技術シーズやアイデアを組み合わせ、本格的な復興支援のプラットフォームの構築、プロジェクト化を進める。今回は緑による街づくり、緑の産業ソリューション、環境や緑化をテーマとした復興博覧会に関わる第二回目の分科会となる。

【要旨】

復旧、復興が話題に上る中、花や緑に関する事項はあまり議論の対象にならない。しかし環境対策や被災土壌の改良、放射能除去、ランドスケープ、植物工場、花卉園芸農業による進行、新たな都市緑化イノベーション、メモリアル公園計画、バイオソリューションクラスター、バイオエネルギー植栽など、花や緑を活用した街づくりを復興計画案として負荷することは大切なことである。今回の構想会議では、どのような流れ、どのような手法で復興博覧会を開催するかについて議論した。

【参考資料】

花と緑がもたらすイノベーション拠点と緑の街づくり、復興花博

花と緑がもたらすイノベーション拠点と緑の街づくり、復興花博

震災から44日、宮城県石巻市と岩手県釜石で力強く咲いた桜

根元から折れながらも花を満開に咲かせた石巻の桜の木。奥は1880年築の旧石巻ハリストス正教会教会堂。

桜が満開となり、避難所が近い桜並木の下でボランティアによる炊き出しが行われた＝岩手県釜石市唐丹町



難所の癒れ、桜で癒やして上越の花見に117人招待

避難所ともなっている気仙成田山で開かれた。近くの避難所からも知らぬ間に人が集まり、咲き始めの桜に心を癒やした。



花と緑がもたらすイノベーション拠点と緑の街づくり、復興花博

花と緑がもたらすイノベーション拠点と緑の街づくり

花と緑による街づくり

都市緑化イノベーション

次世代ランドスケープ

緑の街づくり特区

道路路面緑化と治水対策

街なか林業、道路沿い林業

花と緑のメモリアルパーク、デザイナーズ墓地



花と緑によるソリューション

機能性農畜水産物 ⇒ 機能性植物、機能性園芸

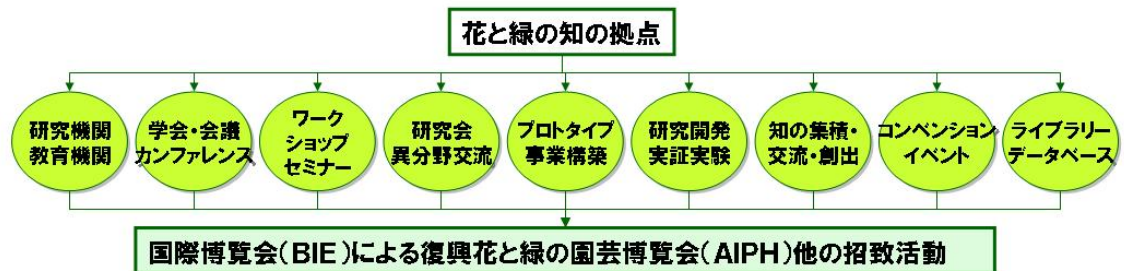
植物と健康医療、癒し効果、園芸療法

塩分除去植物

放射性物質除去



## 花と緑がもたらすイノベーション拠点と緑の街づくり、復興花博



1990年 国際花と緑の博覧会  
(日本国内初の園芸博覧会)



花と緑の国際博覧会ジャパンフローラ2000  
(淡路花博)



1999年 昆明世界園芸博覧会  
(中国初の国際博覧会)



パシフィックフローラ2004  
浜名湖花博



2002年 ハールレミア国際園芸博覧会  
(オランダ・フロリアード)



2004年 都市緑化フェア福岡  
「花どんたく」



### 【会議内容】

- ひたちなか国立公園について  
東日本大震災の影響で来場者前年対比 60%ダウン。  
⇒博覧会の会場として模索可能。  
⇒世界バラ展やラン展などの誘致。(九州ハウステンボス等参考事例)
- 博覧会と復興の親和性について  
博覧会の特性 (①ビジョンを示す②スケジュール組み③住民の理解④海外アピール) は復興計画との親和性がある。
- 博覧会開催における考え方
  - ① 博覧会等はきっかけとし、その後その地域に根付くものであったり、活用できるものとすべき。
  - ② 大きな博覧会を誘致するのではなく、国際博覧会を冠とし、国内博覧会を継続的におこなうことによって、回遊性のあるものとする。  
⇒フラワーベルト構想
  - ③ 花や緑の博覧会を行うことによって、新たな価値の創造  
⇒合掌造りと花・緑のある風景のコラボ  
⇒クリエイターとのコラボ

④ 町並み全体をクリエートする博覧会の開催

⇒博覧会の会場内に一つの街ができあがっているイメージ

⇒博覧会開催後もすみ続けられる。

⑤ 「循環型社会」などの大きなテーマをもとに開催。

● 海外との連携

⇒ポータルサイトなどで呼びかけ、海外からも観光客を呼び込む。

⇒国で参加できるような博覧会とする。(土地を提供し、海外が支援)

以 上